

もりおか歴文館だより1

Rekibunkan News Vol.1

- ◆館長だより「ふたば」vol.1
- ◆平成23年度の企画展のご紹介
- ◆第3回企画展「建築家 菊竹清訓の世界 ～か・かた・かたち～」
- ◆講座スケジュール
- ◆イベントスケジュール
- ◆利用案内



1F 山車展示ホール

撮影：いわねスタジオ

毎年、盛岡では9月14日から16日までの3日間、「盛岡秋まつり」が開催されます。

この祭りの見どころは、300年の歴史を持つ盛岡山車です。延宝9(1681)年、盛岡八幡宮の最初の祭礼が行われました。その後、城下23の丁(町)の趣向をこらした出し物や練物、笠鉾を繰り出したのが山車の始まりといわれています。盛岡秋まつりの山車行事は、盛岡市の無形民俗文化財に指定されています。



館長だより ひたば vol.1

昨年7月1日に開館して、あっという間に半年が過ぎました。ひとりでも多くの方に館を知っていただきたい。そして、ご覧いただきたいと、会う人ごとにお説きいしご案内し続けてまいりました。

お陰様で、9月3日に5万人目を突破、秋田のご家族でした。そして、10月29日には福島のご家族が10万人目となりました。どちらもお仕事で転勤してこられたそうで、盛岡の町を知りたくて館に来てくださったということでした。

今、新しい年を迎える、入館者は13万人を超えたところです。信じられないほどたくさんのご入館をいただいていることに、あらためて感謝し感謝の心でいっぱいです。

就任にあたって、「館長とは何をすればいいのですか?」と市長さんにお聞きしました。すると「盛岡弁の語り部になってほしい」と言われました。

そうかそれならと、開館以来、館長は盛岡弁でお出迎え、お見送りすることにしました。

「よくおでっていただきやんした。ごゆっくりお見れっておくれってくなんせ」

「おありがとうございます。またどうぞおでっておくれってくなんせ」

とお声をかけると、ほとんどの方はふりむいてくださいます。また、他県から来られた方はきっと、小首をかしげて「何て…?」というお顔をなさいますので、盛岡弁の説明をしてお土産代わりにさせていただいております。

盛岡弁で館内の説明をご希望の方は、どうぞ館長を呼び出してください。在館であれば喜んでご案内いたしやんす。

「もりおか歴史文化館」略して「歴文館」。新しい年のイベントも盛りだくさんです。盛岡弁館長が、みなさまのご来館を心からお待ち申し上げております。

もりおか歴史文化館 館長 畠中 美耶子

平成23年度の企画展のご紹介

開館記念特別企画展(第1回企画展)

南部家の至宝～名品が伝える盛岡の歴史～

会期:平成23年7月1日(金)～9月19日(月)

盛岡や各地方に残された南部家ゆかりの名品を、その権威や格式、資料の由来などとともに紹介。武具・甲冑や衣装、調度品、美術品、古文献など、20万石の家格にふさわしい大名道具の数々を展示しました。



赤地羅紗合羽(当館収蔵)



御代々御画像(当館収蔵)

第2回企画展

あの日あの時の盛岡～昭和レトロの世界～

(館蔵写真展)

会期:平成23年10月1日(土)～11月23日(水)

佐々木清八氏、伊山治男氏が撮影した昭和30年代・50年代の盛岡を中心とした岩手県内の風景・風物・人物の写真を紹介。ゆるやかに変貌を遂げる盛岡の町なみの写真を通して、「ちょっと昔の盛岡」「なつかしの盛岡」を思い出していただく機会になればと企画しました。今後も毎年、あの日あの時の盛岡展を開催する予定です。



展示

新収蔵資料展2011

会期:平成23年12月10日(土)～平成24年1月16日(月)

今回の新収蔵資料展では、平成23年8月までに当館に収蔵された資料を中心にご紹介しました。資料内容は古文書、工芸品、調度品、風俗画など広い分野にわたっており、どれも盛岡・盛岡藩の歴史を知るうえで掛け替えのない貴重なものです。またあわせて、特別に盛岡市指定有形民俗文化財である「川原町鉈屋町丁印」と「鍛冶町紙町丁印」の2台を特別展示しました。



建築家

菊竹清訓の世界 ～か・かた・かたち～



2000年にユーゴスラビヴィア・ビエンナーレにて「今世紀を創った世界建築家100人」に選ばれ、2005年の愛知万博の総合プロデューサーも務めた菊竹氏は、盛岡市において旧岩手県立図書館（現当館既存棟）を含め3つの建物を設計しています。本企画展では市内及び全国各地の菊竹作品をご紹介いたします。

2011年12月に惜しくも亡くなられた菊竹氏が手がけた数々の建築作品を通して、その過去から未来へと繋がる建築思想の軌跡を辿ります。県内ではなかなか見ることのできない菊竹氏の建築世界をぜひご覧ください。

きくたけ きよのり
建築家／工学博士 菊竹 清訓（1928～2011）

1928年、福岡県久留米市に生まれる。早稲田大学理工学部建築学科卒業後、株式会社竹中工務店に入社。1953年に菊竹清訓建築設計事務所を開設。1995年に工学博士号を取得。日本建築士会連合会名誉会長、日本建築栄誉賞（日本建築士会連合会）、日本建築家協会名誉会員。旭日中綬章受章。



旧岩手県立図書館（現もりおか歴史文化館）

(撮影:新建築写真部 画像提供:DAAS)



岩手教育会館[1965]・岩手



旧盛岡グランドホテル[1966]・岩手

(撮影:新建築写真部)



旧岩手県立図書館（現もりおか歴史文化館）[1968]・岩手

(画像提供:盛岡市)



出雲大社庁の舎[1963]・島根

(撮影:新建築写真部 画像提供:DAAS)



エキスポタワー[1970]・大阪

(撮影:新建築写真部 画像提供:DAAS)

平成24年 2月11日(土)～4月15日(日) 会場：もりおか歴史文化館 2階企画展示室

※会期中の休館日は、平成24年2月21日(火)・3月21日(水)

開館時間】2～3月／9:00～18:00(入場は17:30まで) 4月／9:00～19:00(入場は18:30まで)

観覧料】2階 歴史常設展示室の入場券をご覧いただけます。※2階歴史常設展示室入場料 一般300円、高校生200円、小・中学生100円 (盛岡市内の学校に就学している 小・中学生の方は、入場料が免除されます)

◆講座スケジュール【2012年2月～3月】

はじめての古文書教室

内容 古文書に興味がある初心者の方向けの入門教室

日時	定員	費用
2月26日(日) 13時半～15時半	20名	500円 (2回通し)
3月4日(日) 13時半～15時半		

講師:千葉一大氏

◆イベントスケジュール【2012年2月～3月】

昭和の遊び体験

内容 けん玉やめんこ、お手玉など昔ながらの遊びを楽しむ

日時	定員	費用
2月12日(日) 10時～15時	なし	無料
2月26日(日) 10時～15時		※展示室入場料が必要

盛岡弁で語る昔話

内容 盛岡弁で昔話・伝説などの語りを行う。出演 小野寺瑞穂氏、ボランティア

日時	定員	費用
2月18日(土) 14時～15時	約50人	無料 ※展示室入場料が必要

お琴演奏会～ひな祭りの宴～

内容 盛岡で生まれた小さなお琴「和音」を中心とした演奏会。出演 澄英会

日時	定員	費用
3月3日(土) 14時～15時	約50人	無料

折紙でおひな様を作ろう

内容 折紙でかわいいおひな様を作る。

日時	定員	費用
3月3日(土) 10時～15時	なし	無料
3月4日(日) 10時～15時		※展示室入場料が必要



お琴演奏会(出演:澄英会)



盛岡弁で語る昔話(語り手:小野寺瑞穂氏)



〒020-0023 盛岡市内丸1番50号
Tel:019-681-2100 Fax:019-652-5296
<http://www.morireki.jp/>

ご利用案内

〈開館時間〉 4月～10月 9:00～19:00 (2階歴史常設展示室への入場は18:30まで)
11月～3月 9:00～18:00 (2階歴史常設展示室への入場は17:30まで)

〈休館日〉 毎月第3火曜日(祝・休日の場合は翌日) 12月31日～1月1日

〈入館料〉 入館は無料です。

2階(歴史常設展示室)のみ有料となり、
右記の入場料が必要となります。

	個人	団体(20人以上)
小・中学生	100円	80円
高校生	200円	160円
一般	300円	240円

○障がいをお持ちの方やその介護をなさる方(付添いを含めて2人まで)は、無料で入場できます。

○盛岡市在住で65歳以上の方は、入場料が免除されますので、係員に各種保険証等をご提示ください。

○盛岡市内の学校に就学している小・中学生の方は、入場料が免除されます。

○企画展をご覧になる場合は、別途入場料が必要となる場合があります。

〈交通の案内〉 ●電車をご利用の場合 ○JR盛岡駅下車 徒歩20分

●バスをご利用の場合 ○岩手県交通・岩手県北バス

●お車をご利用の場合 ○盛岡IC・盛岡南ICから車で25分

※当館の敷地内に一般車両の駐車スペースはございません。隣接する「盛岡城跡公園地下駐車場」(有料)

など近隣の駐車場をご利用ください。

歴文館スタッフ伝言板 | その壱

もりおか歴史文化館での活動を通して

「おはようございます。よくおでんした。」

2011年7月1日にもりおか歴史文化館が開館し、ボランティアとしての第一歩を踏み出しました。お客様をお出迎えする時はいつも喜びが湧き出でます。

これまでの活動を通して特に印象に残っているのは、担当した「夏休み自由研究相談室」ですね。約40人の子どもたちが相談にきていて、その熱心に取り組む姿に、自分の話したことが子どもたちの為になればと心から思いました。

「歴文館」は市の中心にあり、いろいろな人が訪れます。盛岡の文化・芸術・伝統を広く市民の皆様に伝え、「おもてなしの心」で訪れる皆様に楽しかったと思われる館、ボランティアでありたいと考えております。

by ボランティア 木川田正信

※この伝言板では、館の職員、ボランティアスタッフからの声を毎回掲載いたします。

ミュージアムショップのご案内

by 虎店長・コトラコ

これから季節ごとに発行されるこの紙面。ミュージアムショップを紹介するこのコーナーは、「虎店長・コトラコ」が担当いたします。

なぜに虎店長?そしてそして、ショップの入り口にはいつも虎の紙風船がたくさん下がっているのも何故でしょう?答えは「盛岡城には徳川家康から賜った2頭の虎が飼われていた」という歴史を、ご来館者の皆様に楽しんで知っていただけたなら嬉しいなあと思っているからなのです。

盛岡の暮らしから生まれた盛岡ブランドの商品・季節の商品・町あるきのための商品・そして復興や福祉を支援する商品などなど魅力いっぱいの商品が所せましと並ぶショップ。

次回からそんな商品の数々を、私、虎店長、心を込めてご紹介していきますね♪

